

全体総括

○計画期間：平成25年4月～平成31年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、平成 2 5 年 3 月に計画の認定を受け、「歴史・文化を感じ、訪れたい、住みつづけたい城下町（まち）」をテーマとして掲げ、計画に基づいた各種事業に取り組んできた。

中心市街地は、人口減少や高齢化が進行しているものの社会動態や歩行者・自転車通行量は増加しており、活性化や賑わいの創出に向けたこれまでの取り組み効果が出ていると考えている。

津山駅周辺整備については、平成 2 9 年度に全面供用開始となり、本市の玄関口として、集客や回遊の拠点機能となり、駅周辺の賑わい創出に寄与するとともに、平成 2 9 年 1 1 月に物販と待合いスペースを備えた「にぎわい交流館」をオープンし、観光客の利便性の確保と駅周辺の更なる賑わいの創出を図っている。

城下地区にぎわい再生事業により、新たな拠点として整備されたザ・シロヤマテラス津山別邸は、平成 3 1 年 2 月にオープンし、宿泊稼働率は 8 0 パーセントを超えており、バンケットの利用も順調であり、賑わいの創出に大きく寄与している。

中心市街地にある複合施設「アルネ・津山」内の乳幼児や保護者が交流できる子育て支援拠点施設「親子ひろば わくわく」「一時預かりルーム ここにこ」は、平成 2 9 年 3 月のオープン以来、多くの市民が利用し、中心市街地に子育て世代などの人の流れを生み、新たな賑わいの創出に寄与している。

また、まちなかシネマ実証実験事業は、事業開始以降、利用者が 5 5, 0 0 0 人を超え、市民に定着するとともに、アルネ・津山館内の施設や店舗と連携した取り組みにより、波及効果も生まれている。

パワーアップ商業振興事業については、空き店舗への新規出店が継続的にあり、空き店舗の解消とともに商店街の賑わい創出に寄与している。

本市としては、これまでの基本計画の事業により生まれた賑わいやまちづくりの機運を絶やすことなく、引き続き中心市街地の魅力向上や更なる活性化を図ってまいりたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（基準日：人口：1月1日 その他：4月1日）

（中心市街地 地区域）	平成 24 年 度（計画前 年度）	平成 25 年 度（1 年目）	平成 26 年 度（2 年目）	平成 27 年 度（3 年目）	平成 28 年 度（4 年目）	平成 29 年 度（5 年目）	平成 30 年 度（最終年 度）
人口	7,753 人	7,229 人	6,878 人	6,780 人	6,640 人	6,446 人	6,519 人
人口増減数	▲83 人	▲99 人	▲101 人	▲107 人	▲111 人	▲68 人	▲75 人
自然増減数	▲63 人	▲103 人	▲102 人	▲90 人	▲100 人	▲94 人	▲85 人
社会増減数	▲20 人	4 人	1 人	▲17 人	▲11 人	26 人	10 人
転入者数	239 人	256 人	259 人	202 人	209 人	256 人	253 人

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画した事業は、一部未実施の事業があったものの、各取り組みを着実に実施し、概ね順調に進捗・完了し、評価指標に設定した歩行者・自転車通行量や人口の年間社会動態平均は目標値を達成している。

商店街は、後継者不足などにより空き店舗数は増加し、厳しい状況にあったものの、パワーアップ商業振興事業にて計画期間中に31店舗の新規出店があり、空き店舗の解消を図っていった。

「アルネ・津山」内にある子育て支援拠点については、オープン以来、「一時預かりルーム」にこここの利用者数は2,181人、「親子ひろば わくわく」の利用者数は111,342人であり、周辺自治体も含めた多くの来街者を集めるようになった。

「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」は入居者も順調に増え現在満室となるなど社会動態の増加に繋がっている。

平成31年2月にはザ・シロヤマテラス津山別邸が開業し、観光客の旅行消費額や滞在時間が増加し、賑わいの創出や経済の活性化に繋がっている。

計画期間中の活発な民間投資や官民連携事業などにより、新たな魅力の創出や居住環境の改善を図り、賑わい創出を図るとともに人口減少の歯止めを掛けている。

中心市街地の人口が減少しているものの、平成29年度からは人口の社会増となっており、計画期間中に13人の社会動態の増加となった。

こうした状況を勘案し、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

津山市中心市街地活性化協議会としては、関係機関や行政などが協議・連携しながら中心市街地の活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地において、子育て支援拠点施設や高齢者施設などの整備による居住環境の改善、津山駅周辺整備事業による玄関口の利便性の向上、パワーアップ商業振興事業による空き店舗の解消、まちなか健康サポート事業やシネマ事業などによる賑わいの創出など、様々なハード及びソフト事業を展開することでの事業効果により、歩行者・自転車通行量、社会動態、観光客数は増加しており、中心市街地の活性化に相当程度の効果があったものと評価する。

一方、ザ・シロヤマテラス津山別邸の開業は、官民が一体となり整備した施設であるとともに、本市にとり新たな拠点施設となることから、今後大きな期待を持つことができる。

これまでの中心市街地活性化基本計画に基づく取り組みにより、まちづくりの機運は高まっており、引き続き官民が一体となり、中心市街地の活性化に向けて取り組む考えである。

5. 市民意識の変化

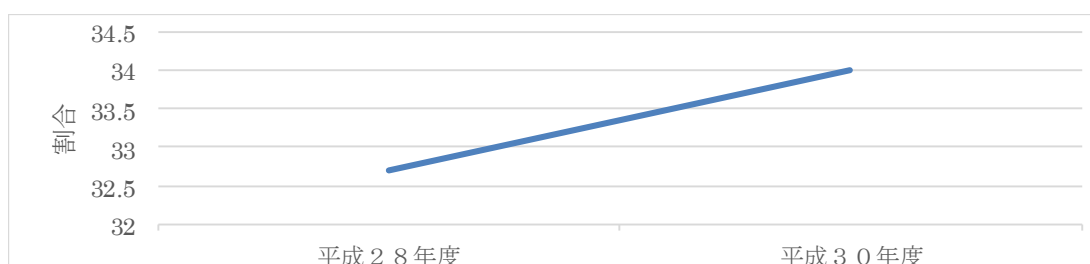
【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

市民アンケート
 調査日：平成30年
 調査方法：市民を無作為に抽出

「中心市街地に賑わいがあるか」という設問に対し、「賑わいがある」と回答した人の割合は増加傾向にある。



6. 今後の取組

本計画の取り組みにより、賑わいの創出や高まったまちづくりの機運を絶やさず、官民がより一層連携し、まちづくりを継続していくことが非常に重要である。

今回の計画の成果を活かしながら、引き続き官民が一体となり、既存ストックを有効活用しながら、本市の特性を踏まえ、中長期的な視点に立ち、中心市街地の各エリアのコンセプトを打ち出し、中心市街地の拠点整備や商業活性化事業等に取り組むことで、より一層魅力を高め、回遊性の向上や持続可能なまちづくりを進めていく。

今後も目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人が集い賑わいを感じる「まち」	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	8,712人 (H24)	10,000人 (H30)	10,809人	H30.9 H30.10	A
人が暮らしやすいと感じる「まち」	人口の年間社会動態 平均	▲16人 (H19-23の 平均値)	±0人 (H30)	2.2人	H31.3	A
歴史文化を感じる「まち」楽しむ「まち」	歴史文化関連施設利 用者数	176,508 人 (H23)	197,000 人 (H30)	191,280 人	H31.3	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標

値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

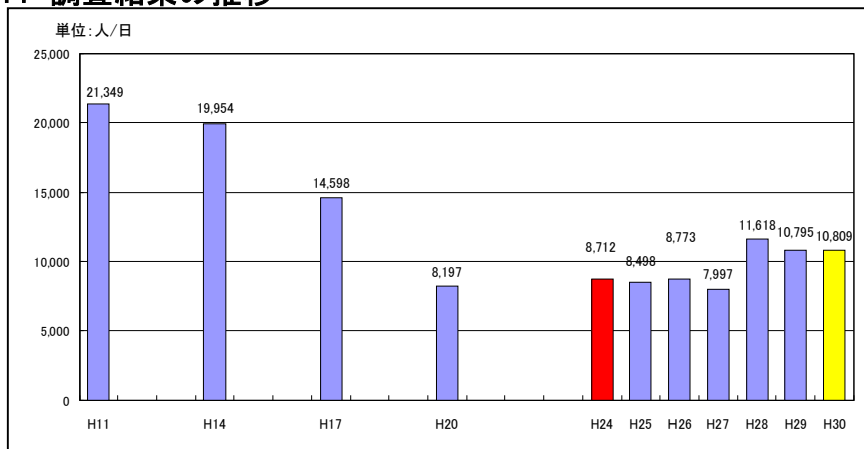
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

I. 「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」

※目標設定の考え方基本計画 P65～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H24	8,712 (基準年値)
H25	8,498
H26	8,773
H27	7,997
H28	11,618
H29	10,795
H30	10,809
H30	10,000 (目標値)

※調査方法：これまでに中心市街地で経年的にデータを計測している9地点と城東地区の1地点を加えた10地点で目視・手動カウントする。

※調査月：平成30年9月、10月

※調査主体：津山商工会議所

※調査対象：調査地点を通過する歩行者、自転車

2. 目標の達成状況【A】

歩行者・自転車通行量については、主要事業である「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」の入居者が順調に増え定員に達していることや、「パワーアップ商業振興事業」による新規出店や、「まちなかシネマ実証実験事業」の定着など、各事業は順調に進み、歩行者・自転車通行量の増加に繋がり、目標を達成したため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① サービス付き高齢者向け住宅等整備事業（グリーンホスピタルサプライ(株)）

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	元魚町地内に高齢者向け住宅、ヘルスカフェレストラン等の商業施設、多目的ホール等を兼ね備えた複合ビルを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(津山市元魚町地区)) (国土交通省) 支援措置名：高齢者等居住安定化推進事業 (国土交通省) 平成25年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：342人 最新値：332人 目標未達成 目標数の60人(満室)の入居者となっているものの、多目的ホールの利用者が目標値に若干届かず、僅かに未達成となる。
達成した(出来なかった)理由	施設整備は予定通り完了し、歩行者・自転車通行量は増えているものの、多目的ホールの利用者が目標値に若干届かず、

	目標は未達成となる。
計画終了後の状況 (事業効果)	高齢者向け住宅や多目的ホールの整備により、居住環境の向上や賑わいの創出に繋がっている。周辺の歩行者・自転車通行量は増加している。
事業の今後について	多目的ホール等の利用を促進する取り組みを行い、居住環境の向上や賑わいの創出を図っていく。

②. 食のpromenade整備事業（民間事業者、津山市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成25年度～平成30年度【済】
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用し、津山の食肉文化を活かした肉料理や地元産品を中心とした郷土料理を提供することにより「食のpromenade」（散策路）を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：388人 最新値：200人 目標未達成 核となる店舗を整備するも、目標値に届かなかった。
達成した(出来なかった)理由	核となる店舗を整備し、マップによる情報発信など、周辺の店舗と連携するなどの取り組みを実施するも、目標値には達しなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	マップによる情報発信など、周辺の店舗と連携し、中心市街地への新たな人の流れに資する取り組みを行い、歩行者・自転車通行量は増加している。
事業の今後について	引き続き情報発信の強化に努めるとともに、周辺店舗との連携を強化し賑わいの創出を図っていく。

③. まちなか健康サポート事業（(株)Globe fitness & studio）

事業実施期間	平成25年度【済】
事業概要	中心商店街の空き事務所を活用し、高齢者をはじめ、多世代の健康増進に資する施設を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：328人 最新値：200人 目標未達成 目標は未達成となったものの、会員数は200名を目標とするなかで、現在472名となっている。
達成した(出来なかった)理由	施設利用者数は現状100名/日程度が最適であり、目標値には届いていないものの、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
計画終了後の状況 (事業効果)	目標値には達していないものの会員数は順調に増加し、1日当たりの利用者数は100名となっている。所属する商店街の歩行者・自転車通行量は増加し、中心市街地への新たな人の流れと賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	情報発信やイベントの実施などにより、賑わいの創出を図っていく。

④. まちなかシネマ実証実験事業（津山市）

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	アルネ・津山内の音楽文化ホールで映画館運営の事業化に向けた実証実験を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（中心市街地再生地区））（国土交通省） 平成25年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：64人 最新値：21人 目標未達成 目標は未達成となったものの、平成30年度の来場者数は9,323人であり、賑わいの創出に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	1回当たりの来場者数が目標値を下回ったことから歩行者・自転車通行量の目標値には達しなかったが、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	シネマ事業は市民に定着し、毎年度1万人程度の来場者数で推移しており、商店街の歩行者・自転車通行量の増加に寄与し、中心市街地へ賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	情報発信の強化や、アルネ・津山館内や周辺商店街と連携した企画を実施するなどし、賑わいの創出を図っていく。

⑤. パワーアップ商業振興事業（津山市）

事業実施期間	平成25年度～平成30年度【済】
事業概要	商店街等が行う空き店舗対策事業等に対し、店舗改装費や家賃等の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成25年度～平成30年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：240人 最新値：496人 目標達成 中心商店街において回遊性が向上し、賑わいの創出に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	計画期間中に31店舗の新規出店者があり、歩行者・自転車通行量の増加に繋がっている。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地内の新規出店は毎年あり、歩行者・自転車通行量の増加とともに、商店街の雰囲気良くなったという声が聞かれる。
事業の今後について	引き続き空き店舗対策事業を実施し、賑わいの創出を図っていく。

⑥. 津山駅北口広場整備事業（津山市）

事業実施期間	平成24年度～平成28年度【済】
事業概要	本市の玄関口である津山駅北口広場を整備し、交通結節点としての機能を向上させるとともに、駅周辺の賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（中心市街地再生地区））（国土交通省） 平成24年度～平成28年度
目標値・最新値及び	目標値：38人 最新値：52人 目標達成

達成状況	平成30年度の駅前観光センターの入館者数は13,218人であり、駅周辺において賑わいの創出に繋がった。
達成した(出来なかった)理由	整備事業は予定通り完了し、施設利用者が増加している。
計画終了後の状況(事業効果)	観光交流センターの整備により、回遊性が向上するとともに、観光客や市民の利用により、通行量が増加し、賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	施設内での企画実施や、お土産品の充実、情報発信の強化などにより、利用者数の増加を図っていく。

⑦. 養護老人ホーム整備事業(津山市)

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	老朽化している養護老人ホームを中心市街地に移転建て替えし、高齢者が安心して暮らせる空間を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：40人 最新値：39人 未達成 目標は未達成となったものの、ほぼ満室状態であり、賑わいの創出に繋がった。
達成した(出来なかった)理由	目標値には達していないものの、予定通り施設を整備し、入居者は79人(80床)でほぼ満室であり、歩行者・自転車通行量は増加した。
計画終了後の状況(事業効果)	安心して暮らせる施設の整備により、歩行者・自転車通行量及び街なか居住の増加に寄与し、賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	健康をテーマとした事業との連携や、地域コミュニティの促進などにより、賑わいの創出を図るとともに、魅力ある施設となるように努めていく。

4. 今後の対策

各事業は予定通り実施することができ、目標を達成することができた。

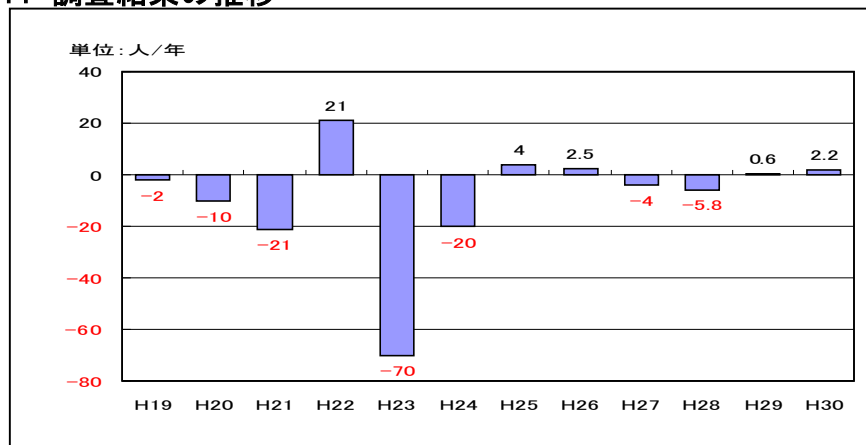
居住環境の整備や魅力ある店舗の出店促進などにより、中心市街地の魅力を高めることで来街者の集客力を高めることにより、歩行者・自転車通行量は増加し、中心市街地の賑わい創出に繋がっている。

計画終了後も中心市街地の活性化に向けて、関係機関やまちづくりコーディネータと連携を図り、空き店舗対策事業やシネマ事業などを引き続き実施し、賑わいの創出に向けて取り組みを進めていく。

個別目標

Ⅱ. 「人口の年間社会動態平均」 ※目標設定の考え方基本計画 P76～P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H19-23 平均	-16 (基準年値)
H25	4
H26	2.5
H27	-4
H28	-5.8
H29	0.6
H30	2.2
H30	±0 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データに基づく

※調査月：毎年4月～翌年3月

※調査主体：津山市

※調査対象：中心市街地の居住者

2. 目標の達成状況【A】

人口の年間社会動態平均については、サービス付き高齢者向け住宅等整備事業やまちなか子育て支援拠点事業等により、まちなかの環境整備や利便性の向上を図り取り組みを実施したことで、中心市街地の賑わい創出につながるとともに、活気や魅力が高まり、転入者が増加した。

事業も予定通り完了し、期待通りの効果が発現し、目標値を上回る結果となったことから、達成状況をAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① サービス付き高齢者向け住宅等整備事業（グリーンホスピタルサプライ(株)）

事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	元魚町地内に高齢者向け住宅、ヘルスカフェレストラン等の商業施設、多目的ホール等を兼ね備えた複合ビルを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(津山市元魚町地区)) (国土交通省) 支援措置名：高齢者等居住安定化推進事業 (国土交通省) 平成25年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：12人/年 最新値：12人/年 目標達成 目標数の60人(満室)の入居者となり、社会動態の増加に繋がった。
達成した(出来なかった)理由	施設整備が予定通り完了し、満室となり、社会動態は増加した。
計画終了後の状況(事業効果)	高齢者向け住宅は満室であり、社会動態の増加とともに歩行者・自転車通行量は増加し、賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	高齢者向け住宅は満室であるため、多目的ホール等の利用を

て	促進する取り組みを行い、賑わいの創出を図る。
②. 養護老人ホーム整備事業（津山市）	
事業実施期間	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	老朽化している養護老人ホームを中心に市街地に移転建て替えし、高齢者が安心して暮らせる空間を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：14人／年 最新値：14人／年 目標達成 80床あり、ほぼ満室状態が続いており、街なか居住の増加に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	予定通り施設整備を完了し、施設の入居者はほぼ満室状態が続いており、居住者は増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	ほぼ満室状態が続いており、社会動態の増加とともに歩行者・自転車通行量は増加し、賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	健康をテーマとした事業などと連携を図り、賑わいの創出を図る。
③. 高齢者向け施設整備事業（民間事業者）	
事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	遊休地となっている旧市営住宅跡地を売却し、街なか居住に資するための施設を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：6人／年 最新値：6人／年 目標達成 60床あり、ほぼ満室状態が続いており、街なか居住の増加に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	予定通り施設整備を完了し、施設の入居者はほぼ満室状態が続いており、居住者は増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	高齢者向け住宅は満室であり、中心市街地の居住環境は改善し、社会動態の増加とともに歩行者通行量は増加し、賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	健康をテーマとした事業との連携や、地域コミュニティの促進などにより、賑わいの創出を図る。
④. 医師専用集合住宅整備事業（財津山慈風会）	
事業実施期間	平成25年度【済】
事業概要	県北の医師不足の解消と街なか居住の推進のため、単身赴任の医師専用の集合住宅を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値：5人／年 最新値：5人／年 目標達成 ほぼ満室状態が続いており、街なか居住の増加に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	予定通り25室の施設整備を完了し、施設の入居者はほぼ満室状態が続いており、居住者は増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	住宅はほぼ満室状態であり、中心市街地の居住環境の改善や利便性の向上に寄与し、社会動態の増加とともに歩行者通行

	量は増加し、賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	居住環境の魅力を高めるための取り組みを実施していく。

4. 今後の対策

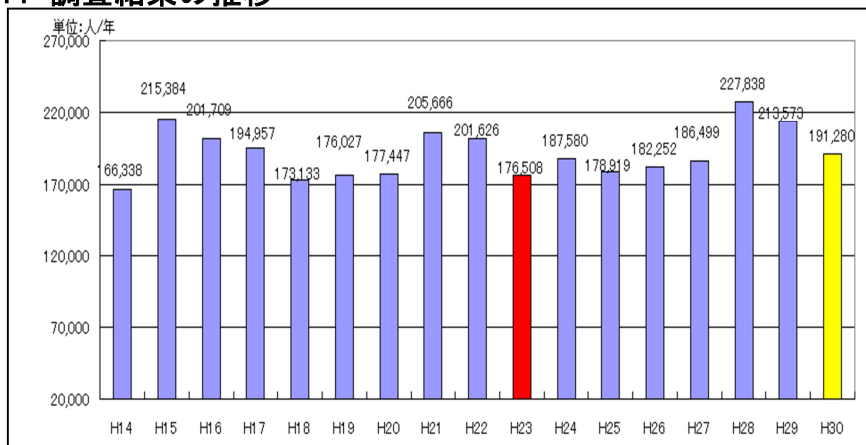
各事業は予定通り実施することができ、目標を達成することができた。

サービス付き高齢者向け住宅や養護老人ホームなどはほぼ満室状態にあり、居住者の増加に繋がったと考える。今後は健康をテーマにした事業との連携や、地域コミュニティの促進などにより取り組むとともに、引き続き、まちなが子育て支援拠点の充実や空き店舗対策など街なかの環境整備や利便性向上を図る取り組みを実施し、街なか居住へのインセンティブを誘導していく。

個別目標

Ⅱ. 「歴史文化関連施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P80～P84 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H23	176,508 (基準年値)
H25	178,919
H26	182,252
H27	186,499
H28	227,838
H29	213,573
H30	191,280
H30	197,000 (目標値)

※調査方法：施設（7施設）ごとに日常的に計測し、年間利用者数を集計

※調査月：毎年4月

※調査主体：津山市

※調査対象：津山城跡（鶴山公園）、箕作阮甫旧宅、城東むかし町家、作州城東屋敷、作州民芸館、津山郷土博物館、観光交流センター（津山駅観光案内所）の7施設

2. 目標の達成状況【B】

歴史文化関連施設利用者数の増加に向けた各事業は予定通り完了し、利用者の増加に繋がった。

しかし、津山郷土博物館については平成30年1月から令和2年3月まで耐震工事を行うため施設は休館中であり、目標値に達することができなかった。

1施設が休館中のなかで、利用者数は目標値に近い値となっており、施設整備による利便性の向上や、観光情報の発信強化やイベントの定着など、各事業の効果があつたと考える。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 鶴山公園景観整備事業（津山市）

事業実施期間	平成24年度～平成27年度【済】
事業概要	津山城跡（鶴山公園）の石垣の整備及び桜の植栽等を行い、景観を向上させる。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） （国土交通省） 平成24年度～平成27年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：8,756人/年 最新値：24,302人/年 目標達成 景観整備やイベントの実施などにより、入場者数が増加し、賑わいの創出に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	予定通り景観整備を実施し、また地域産品を活用したイベントなどの実施などにより、入場者数が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	景観整備やイベントの実施などにより入場者数は増加し、さらに周辺施設の入館者数も増加し、賑わいの創出に繋がって

	いる。
事業の今後について	イベントの充実を図るとともに、情報発信の強化や、周辺施設や関連イベントとの連携をより一層強化し、利用者数の増加を図る。

②. 津山駅北口広場整備事業（津山市）

事業実施期間	平成24年度～平成28年度【済】
事業概要	本市の玄関口である津山駅北口広場を整備し、利便性、快適性を向上させるとともに、既存の観光案内所についても機能拡充を図る。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（中心市街地活性化地区））（国土交通省） 平成24年度～平成28年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：9,780人/年 最新値：13,218人/年 目標達成 駅前観光センターの整備により、利便性や快適性を向上させたことで、入館者数は13,218人となり、駅前エリアの賑わいの創出に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	事業が予定通り完了し、あわせて観光情報やお土産品の充実を図ることで、施設利用者が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	駅前広場は平成29年4月に供用開始し、本市の玄関口として、集客、回遊の拠点機能を担っており、利用者数や駅周辺の歩行者・自転車通行量は増加している。
事業の今後について	施設内での企画実施や、お土産品や観光案内機能の充実、情報発信の強化に取り組むとともに、駅周辺観光施設との連携を強化し、利用者数の増加を図る。

③. 城西まちづくり協議会活動事業（津山市）

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【実施中】 〔認定基本計画：平成27年度～平成29年度〕
事業概要	城西地区のまちづくり協議会によるコミュニティ活動への支援をする。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置名：中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成27年度～平成30年度 〔認定基本計画：平成27年度～平成29年度〕
目標値・最新値及び達成状況	目標値：4,500人/年 最新値：7,686人/年 目標達成 施設整備やイベントの実施などにより、入場者数が増加し、賑わいの創出に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	施設整備や地域に密着したコミュニティ活動の実施などにより、来街者の増加につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	地域に密着したコミュニティ活動やイベントの実施などにより来街者は増加し、賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	引き続き地域に密着したコミュニティ活動を支援することにより、来街者の増加を図る。

4. 今後の対策

1 施設が耐震工事中で休館中であるため、目標達成には至らなかったが、鶴山公園景観整備事業や津山駅北口広場整備事業などにより、利便性の向上などを図り、賑わいの創出や回遊性の向上に繋がり、歴史文化関連施設の利用者は増加傾向にあり、成果はあったと考える。

イベントなどのソフト事業は、年々定着し利用者は増えており、引き続きまちづくり関係者や学校などとも連携を図りながら、魅力あるイベントを実施していく。

また、観光案内の充実や情報発信の強化に努めていく。

計画終了後も、中心市街地活性化に向けて、これまでの取り組み効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。